笛吹市文化財調査報告書36集

山梨県笛吹市

身洗沢遺跡

農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017・3

笛吹市
笛吹市教育委員会

序

本書は平成 27 年度に実施された身洗沢遺跡（笛吹市八代町南）の発掘調査報告書です。身洗沢遺跡は、平成元年に行われた発掘調査によって弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落や水田跡が見つかっています。この発掘調査は、山梨県内で初めて本格的に水田跡の調査に取り組んだものでした。出土した木製農耕具は平成８年に山梨県の文化財に指定され、弥生時代の生活文化を知る貴重な資料となっています。

今回の調査は笛吹八代スマートインターチェンジの建設に伴い、周辺の畑地への新たな進入路として計画された農道の建設される範囲を対象として実施しました。スマートインターチェンジ本体の発掘調査は山梨県埋蔵文化財センターが同時期に実施しており、本調査はその周辺部分を調査したことになります。

調査の結果、古墳時代後期の竪穴状遺構や古墳時代後期から平安時代にかけての流路後が発見され、木製品を含む多くの遺物が出土しました。

笛吹市ではこれまで『甲斐国千年の都』として、岡・銚子塚や竜塚などの前期古墳、姥塚などの後期古墳、甲斐の国府推定地として知られる春日居町国府や御坂町国衙、県下最古の寺院である寺本廃寺跡、甲斐国分寺跡や国分尼寺跡などの官営寺院などを広く紹介し、整備活用に向けて取り組んでおります。

本報告書の刊行により、『千年の都』が成立する前段階である弥生時代や古墳時代の生活を知る上での良好な資料を提示することが出来ました。市の取り組みがより厚みを増すことが期待されます。

発掘調査にあたり、ご指導を賜りました山梨県教育委員会はじめ、ご理解・ご協力を賜りました関係諸機関、発掘調査においてご不便をおかけいたしました地元地権者各位、隣接農地の耕作者各位、発掘調査に参加いただきました作業員各位に深く感謝申し上げ、この発掘調査報告書の刊行の序文に代えさせていただきます。

平成 29 年３月

笛吹市教育委員会
教育長　坂本誠二郎

例　　言

1、本書は、山梨県笛吹市八代町南地内に所在する身洗沢遺跡の発掘調査報告書である。
2、本調査は、笛吹市建設部土木課による笛吹八代スマートインターチェンジ建設に伴う農道建設を原因とするものであり、笛吹市教育委員会が調査主体となり発掘調査･整理作業･報告書作成を行った。
3、試掘調査は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金並びに山梨県文化財保護事業費補助金を活用し、2015 年（平成 27 年）３月９日から 19 日まで実施した。
4、発掘調査（現場作業）は 2015 年（平成 27 年）５月 11 日から６月 11 日まで実施した。
5、本報告書の編集及び執筆は、瀬田正明が行った。
6、本書に掲載した遺構写真は瀬田正明が撮影した。遺物写真のうち木製品の撮影は株式会社昭和測量に委託した。
7、発掘調査及び整理作業のうち一部の業務は、以下の機関に委託並びに協力を得た。
　基準点測量　株式会社昭和測量
　空中写真撮影　株式会社昭和測量
　木製品実測・デジタルトレース・写真撮影　株式会社昭和測量
8、本報告書に係わる出土品および記録図面・写真などは一括して笛吹市教育委員会に保管してある。
9、発掘調査・報告書作成に際し、下記の方々からご協力、ご教示を頂いた。
　記して感謝の意を表したい。
　八代町南区、地権者各位、隣接耕作者各位、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、公益財団法人山梨文化財研究所、(故) 谷口一夫、長沢宏昌、新津健（以上、笛吹市文化財保護審議委員)、網倉邦生、熊谷晋祐、塩谷風季、柴田亮平 (以上、山梨県埋蔵文化財センター)、高野高潔

(順不同・敬称略)

凡　　例

本書における遺構・遺物の表示は以下のとおりである。
1、遺跡全体におけるＸ・Ｙ座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系の座標値を示している。遺構断面図等脇の数値は、標高を示す。
2、遺構番号は原則として発見順に付していている。
3、掲載図の縮尺は原則として以下のとおりである。
　遺構図　個々の遺構 1/60　微細図 1/20
　遺物図　土器・陶器・石器・木製品 1/3
4、本書で用いた地図は、国土地理院発行「石和」1/25,000（第１図)、八代町発行「都市計画基本図５」1/2,500（第２図）である。
5、土層説明および出土遺物観察表の色調の表示は、『新版　標準土色帳』26 版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　小山正忠・竹原秀雄・著　2004）によっている。
6、観察表の（　　）内の数値は、推定値である。

調　査　組　織

調査事務局

坂本誠二郎　（笛吹市教育委員会教育長）
堀内常雄　（笛吹市教育委員会教育部長）平成 26 年度
雨宮寿男　（笛吹市教育委員会教育部長）平成 27 年度
野田昭人　（笛吹市教育委員会教育部長）平成 28 年度
猪股喜彦　（笛吹市教育委員会文化財課長）

（試掘調査）平成 26 年度

発掘調査担当者　望月和幸　（笛吹市教育委員会文化財課）
発掘調査作業員　大久保良信、河西町男、北野玲子、鈴木洋、竹越妙子、近山辰男、土屋常子、中込榊、中澤保、萩原森詞、馬渕泰蔵、望月一正、望月孝次

（本調査）平成 27 年度

発掘調査担当者　瀬田正明　（笛吹市教育委員会文化財課）
発掘調査作業員　大久保良信、河西町男、鈴木洋、近山辰男、土屋常子、中込榊、中澤保、萩原森詞、藤原さつき、馬渕泰蔵、望月一正、望月孝次

（整理作業）平成 27・28 年度

整理作業担当者　瀬田正明　（笛吹市教育委員会文化財課）
室内整理作業員　椚美代子、角田万紀、藤巻淑子

目次

序
例言・凡例
調査組織
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　調査経過…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査の経過…… 1
第２章　　地理的、歴史的環境…… 3
第３章　調査の方法…… 6
　第１節　試掘調査の概要…… 6
　第２節　調査の方法…… 6
第４章　検出された遺構と遺物…… 6
　第１節　第１区…… 6
　第２節　第２区……12
　第３節　第３区……21
第５章　結語……26

引用・参考文献
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡位置図（S=1/25,000）…… 2
第２図　調査地周辺図（S=1/2,500）…… 5
第３図　身洗沢遺跡全体図（S=1/500）…… 7
第４図　第１区全体図（S=1/60）…… 9
第５図　第１区遺構微細図等……10
第６図　第１区出土遺物……11
第７図　第２区全体図（S=1/150)……13
第８図　第２区遺物出土状況（S=1/200)……14
第９図　第２区出土遺物①……15
第10図　第２区出土遺物②……16
第11図　第２区出土遺物③……17
第12図　第２区出土遺物④……18
第13図　第２区出土遺物⑤……19
第14図　第２区出土遺物⑥……20
第15図　第３区全体図（S=1/100）……22

表目次

表１　土器・陶器観察表①……23
表２　土器・陶器観察表②……24
表３　木製品観察表……25

写真図版目次

図版１　身洗沢遺跡　全景
図版２　第１区調査状況
図版３　第２区調査状況①
図版４　第２区調査状況②
図版５　第１区・第２区出土遺物 (土器・陶器)
図版６　流路跡出土木製品①
図版７　流路跡出土木製品②
図版８　流路跡出土木製品③

第 1 章　調査経過

第 1 節　調査に至る経緯

笛吹八代スマートインターチェンジは、観光振興や農業の活力向上、企業活動の活性化などを目的として、笛吹市八代町南地内の中央自動車道と県道 22 号線の交差点付近に建設が計画された。対象地は身洗沢遺跡及び隣接地に位置しているため、文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘の通知が、山梨県県土整備部峡東建設事務所・中日本高速道路株式会社八王子支社・笛吹市の三者から平成 25 年 2 月から 3 月にかけてそれぞれ提出された。

事業予定地全体に対する埋蔵文化財調査について、起業者である三者と文化財保護部局である山梨県教育委員会学術文化財課・笛吹市教育委員会文化財課とで協議を行った。その結果、スマートインターチェンジ本体の埋蔵文化財調査については両者共同で調査を行い、本調査及び報告書刊行については県教育委員会が行うことで平成 26 年 6 月 9 日付けで協定が締結された。

平成 26 年 10 月、スマートインターチェンジの建設に伴い周辺の農地への新たな進入路の建設が笛吹市により計画された。対象地はスマートインターチェンジ本体に隣接しているが、市単独の事業であるため埋蔵文化財の調査については市教育委員会が担当することとなった。

市教育委員会では、文化庁・県の補助金を活用して試掘調査を実施することになり、平成 27 年 3 月 9 日より試掘調査に着手した。

試掘調査は、計画地内に 7 ヶ所のトレンチを設定し、人力で掘削。遺構や遺物の出土状況及び土層堆積状況を観察して本調査が必要な範囲を確認した。その結果、対象地北端と東側で遺構・遺物が確認され、本調査が必要と判断された。また、対象地南側のトレンチでは遺構・遺物ともに確認されなかったが、隣接地で県教育委員会が実施した試掘調査で多くの土器片が確認されていることから記録保存のための発掘調査の対象とした。

以上の経過を経て、発掘調査は年度を改めた平成 27 年 5 月 11 日に着手した。

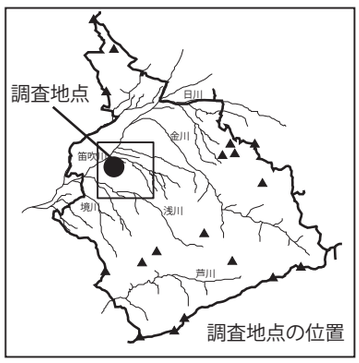
本調査にかかる諸手続きについては、下記のとおりである。

文化財保護法 94 条に関する埋蔵文化財発掘の通知	平成 27 年 1 月 21 日
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）	平成 27 年 1 月 27 日
試掘調査	
文化財保護法 99 条における着手報告	平成 27 年 3 月 10 日
文化財保護法第 100 条第 2 項、遺失物法による埋蔵物発見届	平成 27 年 3 月 19 日
本調査	
文化財保護法 99 条における着手報告	平成 27 年 5 月 12 日
文化財保護法 100 条第 2 項、遺失物法による埋蔵物発見届	平成 27 年 6 月 15 日

第 2 節　調査の経過

発掘調査は、平成 27 年 5 月 11 日に着手した。まず重機を用いて表土除去から開始したが、調査区が 3 ヶ所に分かれたため南側の第 3 区から開始し、第 2 区、第 1 区と順番に掘削を行った。12 日から作業員を投入して手作業により遺構の平面確認を行い、第 2 区では 14 日から包含層の掘り下げを開始して、順次遺物の取上を行った。第 3 区では遺構・遺物が確認されなかったため、19 日に調査を終了した。第 1 区では遺構のプランが確認されたため、20 日より土層観察用の畦を残しながら遺構の覆土を掘削し、遺物の取り上げ、炉跡等の微細図の作成を行った。6 月 8 日に小形無人航空機による全景写真を撮影し、11 日に全体の測量を行って調査を終了した。なお、市教委の調査終了と前後して県教委により隣接地の発掘調査が開始されたため、現地の埋め戻しは行っていない。

整理作業は、平成 27 年度に基礎的整理作業、28 年度に整理作業を実施し、報告書を作成した。



第１図　遺跡位置図（S=1/25,000）

第２章　地理的、歴史的環境

身洗沢遺跡は、山梨県笛吹市八代町に所在し、弥生時代・古墳時代の集落跡として知られている。八代地域は御坂山塊から流れ出す浅川によって形成された扇状地上に発達してきた。調査地も浅川扇状地の扇端部に位置し、標高は約 270 mである。扇状地扇端部に位置しているため、周囲には多くの湧水があり、古代から水の豊かな地域であったことが推測される。調査地周辺は、ブドウ、桃、スモモといった果樹栽培に適した地域であり、周囲には果樹園が広がっている。

八代町地域は、山梨県内でも遺跡の多い地域として知られている。

旧石器時代の遺跡は丘陵上の遺跡で確認されており、銚子原遺跡で切出形石器、上ノ平 A 遺跡で石刃状剥片が出土している。これに続く縄文時代草創期についても、柳原遺跡で有舌尖頭器や木葉形尖頭器が出土している。これらはいずれも石器が単独で発見されており、ブロックや礫群などの生活遺構は確認されていない。

縄文時代前期後半以降、大規模な集落が形成されるようになる。花鳥山遺跡は御坂山塊から舌状に延びる丘陵上に立地する遺跡で、これまでに 3 回にわたって発掘調査が行われ 30 軒近くの竪穴住居跡と大量の遺物が発見されている。住居跡の大部分は前期後半に位置付けられる。調査範囲が狭いのに、住居跡の重複が著しいことから大規模な集落の存在がうかがわれる。

銚子原遺跡は八代町岡地内の丘陵上に立地する遺跡で、これまでに 4 回にわたって発掘調査が行われ、40 軒近くの住居跡が発見されている。住居跡の時代は前期前葉から後期前葉にわたっている。なかでも 4 次調査では長軸 12.2 mの大型住居跡が発見され、山梨県内では初めての確認となった。

三光遺跡は浅川扇状地の扇頂近くに立地する遺跡で、中期中葉から後葉の竪穴状遺構、集石遺構、土坑、後期前葉から後葉の土坑、配石遺構、晩期の焼土遺構などが発見されている。特に中期後葉の土坑から長軸 11cm の硬玉製大珠が出土している。

縄文時代の住居跡はこのほかにも竜安寺川西遺跡、仲原遺跡、京原遺跡、西原遺跡などで確認されている。これらはいずれも丘陵などの高台上に立地するが、浅川扇状地扇央部の南居遺跡や扇端部の横田遺跡でも中期を中心とした縄文土器が多量に採集されており、扇状地上にも集落が広がっていたことが推定されている。

弥生時代前期の遺跡として、容器形土偶が出土した岡遺跡が知られている。容器形土偶は内部が中空となり乳幼児の埋葬に用いられたと考えられている。岡遺跡では大小 2 個体の容器形土偶が復元されているが、別個体の破片もあることから少なくとも 3 個体が埋葬されていた可能性が高い。いずれも顔面と身体に入墨を表現したと見られる文様が施されており、当時の人々の姿や習俗を知る上でも貴重な資料であることから、山梨県指定文化財になっている。容器形土偶出土地点周辺を含めて八代地域周辺では弥生時代前期の遺跡は未だに確認されていない。この時期にどのような集団がこの容器形土偶を埋葬したかはまだ不明である。

弥生時代後期になるといくつかの集落遺跡が確認され、様相が明らかにされつつある。今回調査を行った身洗沢遺跡は平成元年にも発掘調査が行われ、弥生時代後期の住居跡２軒、水田跡、古墳時代前期の竪穴状遺構、土坑及びピットなどが発見された。弥生時代の遺構は微高地上に住居跡があり、それに隣接した微凹地に水田跡が営まれていた。水田跡の発見された微凹地は、旧河道が洪水によって埋もれていく過程で弥生後期段階に３回にわたって水田が造られ、古墳時代前期段階に至ってほぼ埋没したことが確認された。水田には狭い谷状の凹地地形に対応するように畦畔や水路が設けられていた。水田や埋没旧河道を中心に多量の土器や木製品が出土した。木製品にはクワ、エブリの未製品、膝柄クワの柄、又クワなどの農具のほか、木製剣、縦櫛などが出土している。本遺跡は山梨県内で初めて水田遺構の調査を行った遺跡であり、その後県内各地で水田遺構の調査が行われる端緒となった。出土した木製品は当時の生活を物語る貴重な資料として県指定文化財となっている。

笛吹市の遺跡台帳では身洗沢遺跡周辺の弥生時代遺跡として屋敷之内遺跡・神ノ木遺跡・一町五反遺跡・沢又木遺跡・弁才天遺跡・下長崎遺跡・上堀遺跡・塚ノ越遺跡・観音溝遺跡・石橋遺跡などが登録されている。いずれも扇状地扇端部に立地する遺跡で、観音溝遺跡では住居跡２軒、溝４条、土坑２基が発見されている。

少し離れるが境沢遺跡で弥生後期の住居跡２軒、石和高校周辺遺跡でも弥生後期の遺物包含層が発掘されている。立地・時代も共通することから、身洗沢遺跡と同様、微凹地に水田を営み、隣接した微高地を居住空間とした集落景観が点々と広がっていたことがうかがわれる。

一方、弥生後期から古墳時代前期になると丘陵などの高台上に集落が見られるようになる。上の平 A 遺跡は八代町米倉の丘陵上に立地し、昭和 59 年の発掘調査によって弥生後期の住居跡７軒が発見されている。西原遺跡は平成 8 年から 11 年にかけて発掘調査が行われ、弥生末から古墳時代初頭の住居跡６軒と方形周溝墓 13 期が発見されている。同時期の住居跡や方形周溝墓は龍安寺川西遺跡や京原遺跡、柳原遺跡でも確認され、少し離れるが、諏訪尻遺跡や前付・馬場遺跡ではまとまった住居跡群が発見されている。

八代地域における古墳は 4 世紀後半に丘陵上に出現する。岡・銚子塚古墳は最初に本地域で築造された前方後円墳で全長 92m を測る。主体部は粘土槨で、江戸時代の宝暦年間に盗掘されたため遺物は現存しないが、仿製二神二獣鏡などの拓本が『甲斐名勝志』に伝えられている。墳丘には円筒埴輪や器材形埴輪が樹立されていた。4 世紀後半と推定されている。また竜塚古墳は一辺約 55m の方墳で、主体部は木棺直葬と推定されている。出土した土器から 5 世紀前半代の築造と推定されている。

5 世紀後半代になると扇状地上にも古墳が築造されるようになる。身洗沢遺跡の東側 500 mにある狐塚古墳は全長約 26m の帆立貝式古墳である。発掘調査が行われていないため主体部は不明だが、昭和初期に前方部から鉄剣 1、鉄刀２、鉄鉾 1 などが出土し、墳丘からは円筒埴輪が採集されており、5 世紀後半代に築造されたものと推定されている。団栗塚古墳は径 18 m程度の墳丘が残存しているが、かつては帆立貝式古墳であったといわれている。後円部の主体部は竪穴式石室と組合せ石棺が並列しており、墳頂の削平が著しく蓋石が露出している。工事によって主体部が掘られており、竪穴式石室からは直刀２、鉄鏃 10、土師器などが、組合せ石棺からは乳文鏡１、玉類、直刀 1 が出土したとされるが乳文鏡だけが現存している。出土遺物から 5 世紀後半代の築造と推定されている。

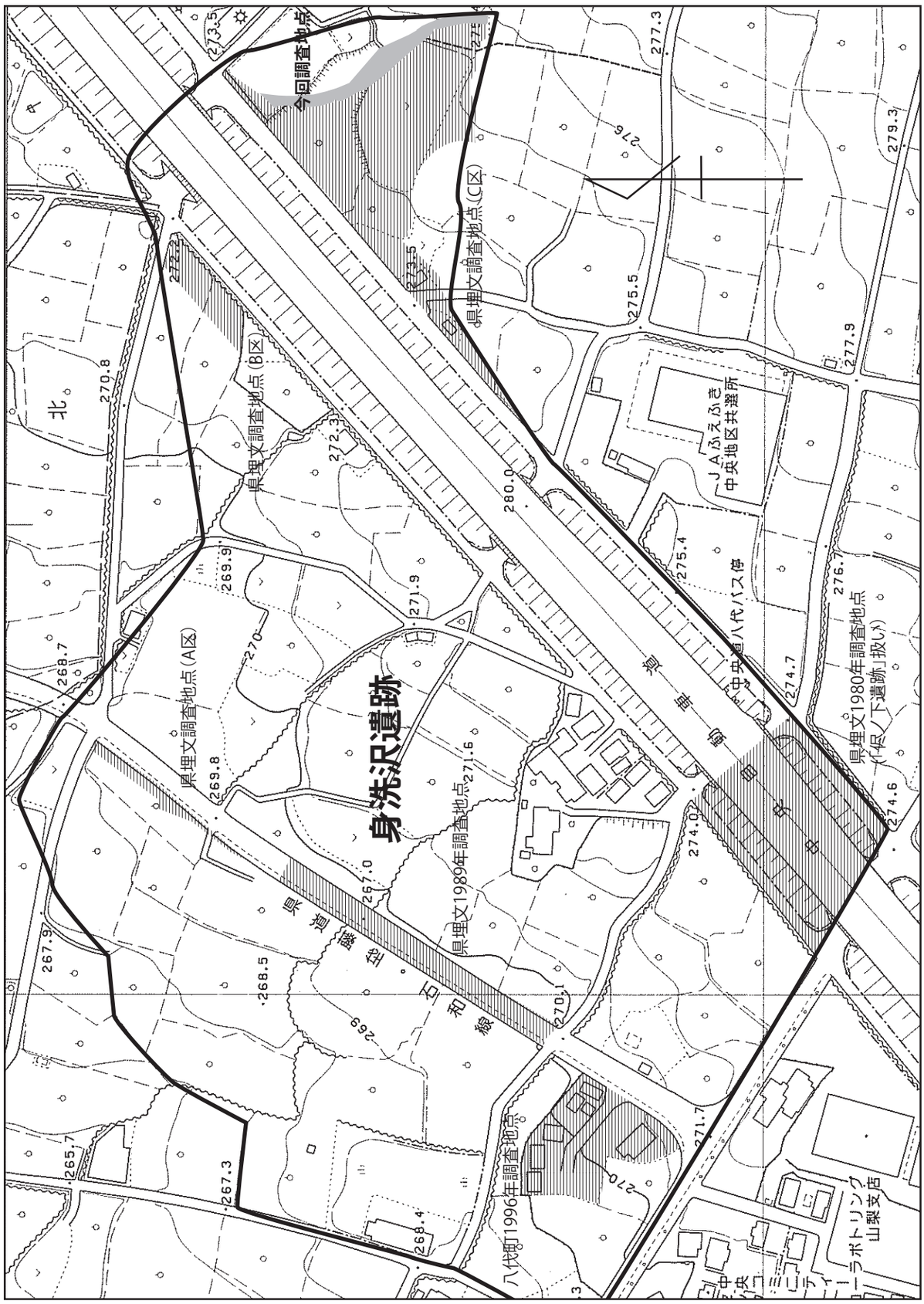
6 世紀前半になると古墳の主体部として横穴式石室が採用されるようになる。荘塚古墳は土地改良中に出土した遺物から 6 世紀前半代の築造と考えられており、墳丘の一部と主体部がすでに壊されているが、周囲に巨大な石が残存していることから横穴式石室であったと推定されている。地蔵塚古墳は径 35m の円墳で全長 10.1 mの片袖式横穴式石室が開口している。６世紀末から７世紀初頭の築造と推定され八代地域においては最大規模の横穴式石室を持っている。

７世紀以降、浅川の右岸沿いに小規模な円墳が数十基築造され、群集墳を形成するようになる。これらの古墳のうち、古柳塚古墳からは銀象嵌円頭太刀柄頭、金銅製透彫心葉形鏡板付轡、鉄製壷鐙などが、竹居 1 号墳からは銀象嵌八窓鍔及び刀装具、御崎古墳からは金銅製毛彫馬具が出土しており、武具・馬具の中でも優品を副葬するもの目立っている。

古墳時代後期以降の集落遺跡としては、五里原遺跡、下長崎遺跡、八王子遺跡、堀ノ内遺跡、金地蔵遺跡などがあり、奈良・平安時代まで継続する。この時代の集落は『倭妙類聚抄』に記載された八代郡八代郷・長江郷を構成する集落であると考えられている。八代郷は郡名を関していることから八代郡家の所在郷である可能性が高く、堀ノ内遺跡周辺に郡家の存在が指摘されている。また永井の瑜伽寺は奈良時代の塑像仏の残欠が残され、周辺からは甲斐国分尼寺跡と同范の軒平瓦が出土していることから、古代寺院の伽藍が周辺に埋もれているものと推定されている。

古代末期には紀伊熊野神社の荘園である「八代庄」が成立し、荘園の停廃をめぐる荘園領主と国衙勢力との争いが『長寛勘文』として残されている。八代町北地区に鎮座する熊野神社は荘名の由来となっていることから八代庄の中心地であったと思われる。

本遺跡の北側を甲斐と駿河を結ぶ若彦路が通っている。この若彦路が古墳時代以降の八代地域、古代以降は八代郡の中心地として繁栄を続けた役割を果たしたものと思われる。



第２図　調査地周辺図（S=1/2,500）

第３章　調査の方法

第１節　試掘調査の概要

試掘調査は平成 27 年３月 13 日から３月 19 日まで実施した。対象となる道路は笛吹八代スマートインターチェンジ下り車線側に隣接し、北側から東側にかけて約 110 m、南側に約 15 mの道路が新設される。そのため、北側道路に６ヶ所、南側道路に１ヶ所の試掘坑を設定し、人力により掘削し、遺構・遺物の確認及び土層堆積状況の確認を行った。

調査の結果、北側道路に設置した６ヶ所のトレンチのうち、最北部の１トレンチと中央部の４・５トレンチで遺構・遺物が確認された。対象地を東西に流れる水路付近は周辺より一段低い谷状地形を形成しており、その部分に設定した２・３トレンチからは摩滅した土師器片が少量出土するような状態であり、遺構に伴うものでなく小河川で運ばれたものと判断された。また、対象地最東部に設定した６トレンチからは遺構・遺物は検出されなかった。

南側道路に設定した７トレンチからは遺構・遺物が確認されなかったが、県教委が隣接地で実施した試掘調査で多くの土器片と溝状遺構が確認されていることから面的な遺構確認作業が必要であると考えられた。

上記のような調査結果から、谷状地形の北側の１トレンチ部分と東側の４・５トレンチ部分、それに南側道路部分の３ヶ所を対象として、記録保存を目的とした本調査が必要と判断された。

第２節　調査の方法

試掘調査結果に基づき、遺構などが検出された３ヶ所を対象に本調査を実施した。

調査にあたり対象となる３ヶ所を第１区～第３区とした。第１区は北側道路の最北部に位置し、試掘の１トレンチを対象として調査予定面積は約 70㎡である。第２区は北側道路の東部に位置し、試掘の４・５トレンチを対象として調査予定面積は約 210㎡である。第３区は南側道路に位置し、試掘の７トレンチを対象として調査予定面積は約 70㎡である。

調査は、重機により耕作土を除去後、人力による遺構検出面の精査を行い、遺構のプランを確認。それぞれの覆土を掘り上げ、土層断面観察を行いつつ記録を作成した。

記録の作成に当たっては、調査区内に世界測地系に即した座標を設置した。それぞれの調査区が狭小であるため特別なグリッドは設定しなかった。遺構の測量は土層断面・平面図とも手実測で行った。遺物は平面図上に位置を記録して取り上げた。小破片については遺構ごとに一括出土遺物として取り上げた。

遺構・遺物の出土状況の撮影はデジタル一眼レフカメラを使用し、デジタル画像として記録した。調査区の全景写真は株式会社昭和測量に委託して、小形無人飛行機を用いて撮影した。

第４章　検出された遺構と遺物

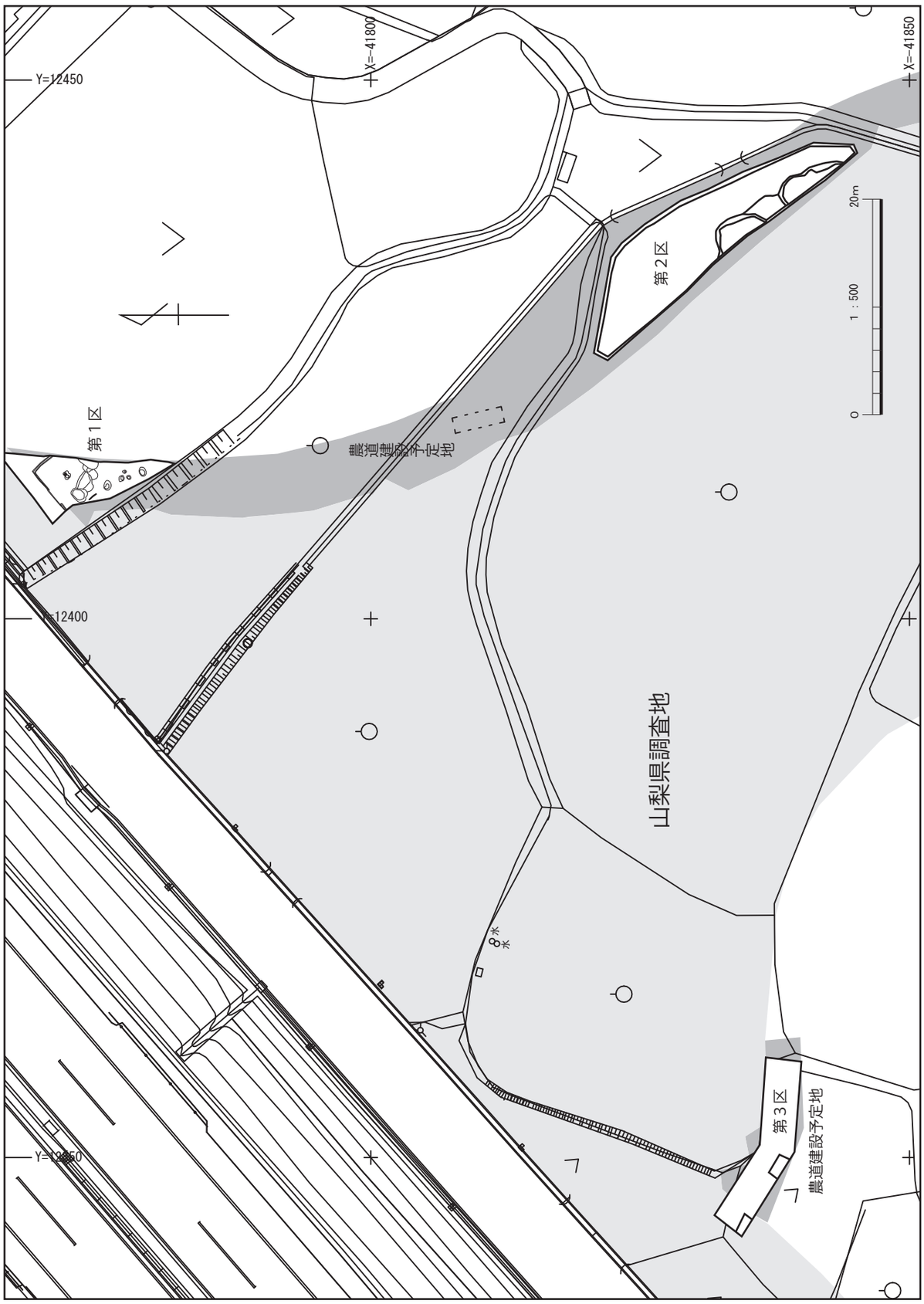
第１節　第１区（第４図）

第１区は調査地の最北部に位置し、北側から西側にかけて県教委調査地区と接している。谷状地形の北側に位置し、一段高くなって乾燥した土地になっている。調査範囲は南北約 16 m、東西約６mの三角形を呈している。調査の結果、竪穴状遺構１基、土坑５基、ピット３基が確認された。

１号竪穴状遺構（第４図・第５図・図版２）

主　軸　N－50°－E

遺構概要　北東・北西・南西の周溝の一部と炉跡が確認されたが、柱穴・貼り床などは確認されなかったため竪穴住居跡ではなく竪穴状遺構とした。南側は１号土坑・３号土坑・４号土坑や攪乱などに切られる。遺構規模は周溝上面で南西－北東軸上で 5.57 m。南東の周溝が確認されていないため対角の規模は不明だが方形を呈すものと考えられる。床面までの深さは５～ 10cm と浅く、周溝の深さも３cm と浅い。炉跡は南



第３図　身洗沢遺跡全体図（S=1/500）

西－北東軸上で、中心よりやや北東側に設けられている。南東側が大きく攪乱されているが、長軸 67cm、短軸 28 ～ 44cm の８の字状の平面形を呈する。床面から約 25cm 掘り込んでおり北東寄りに火床面を持つ。
遺物出土状況（第４図）　出土遺物は多くなかったが、北側床面から土師器坏（１）と軽石（４）が、東側床面の１号土坑と接する部分から土師器甕（３）が、炉跡内から土師器坏（２）が出土している。
出土遺物（第６図・図版５）　図示した遺物は土師器坏が２点、甕が１点、それに浮きかと考えられる軽石が出土している。
時　期　土師器坏、甕ともに古墳時代後期に位置付けられる。

１号土坑（第４図・図版２）
遺構概要　１号竪穴状遺構南側の床面に掘り込まれている。長軸 153cm、短軸約 130cm の楕円形を呈し、深さは 48cm ある。土層観察から１号竪穴状遺構を切って作られていることがわかる。
遺物出土状況（第４図）　出土遺物は少なく、覆土上層から土師器甕（８）が数点の破片となって出土した。
出土遺物（第６図・図版５）　図示した遺物は土師器甕が１点出土している。
時　期　土師器甕は古墳時代後期に位置付けられる。

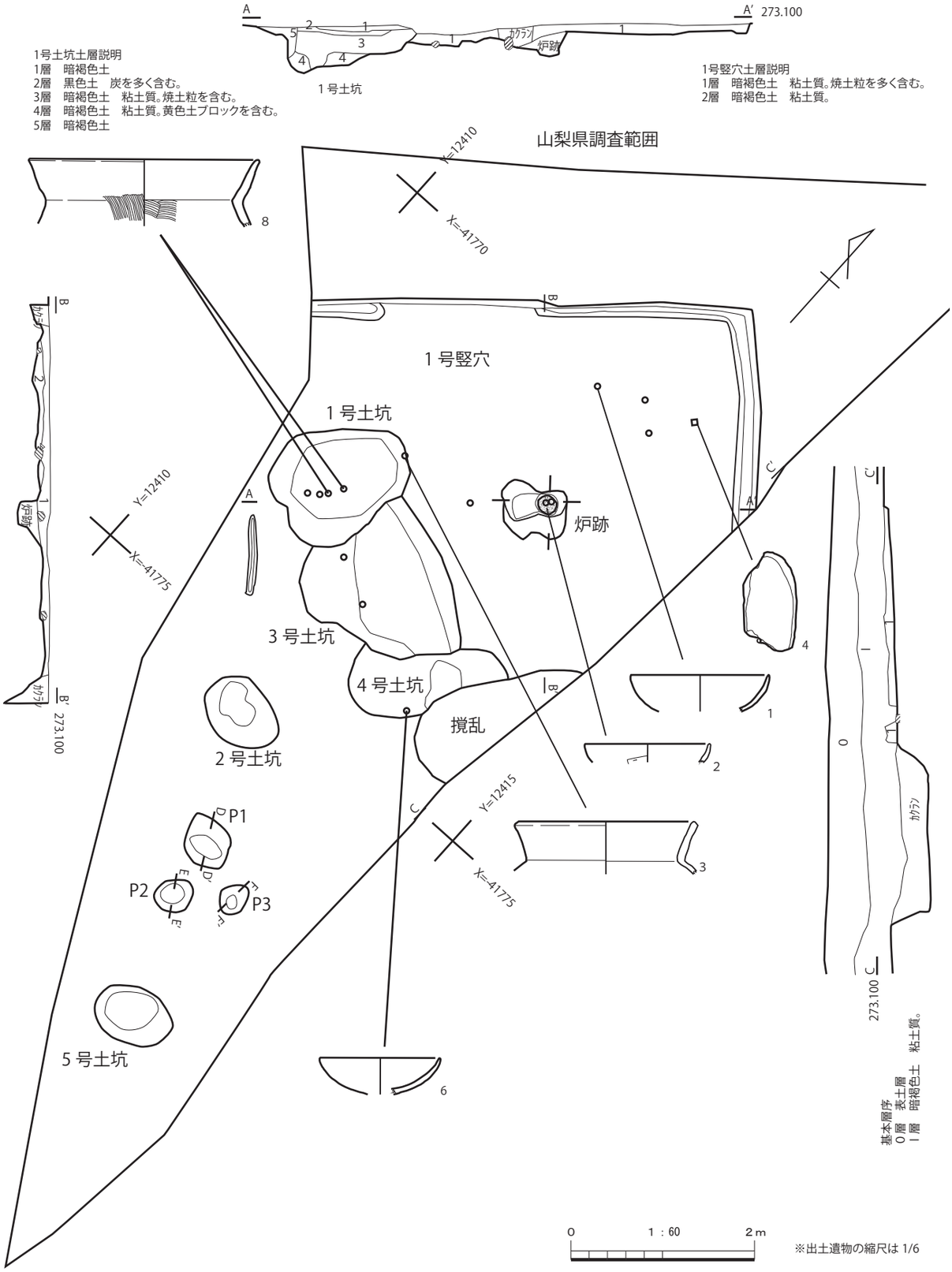
２号土坑（第４図・図版２）
遺構概要　第１区中央よりやや南寄りに位置する。長軸 96cm、短軸約 64cm の楕円形を呈し、深さは 37cm ある。遺物は出土していない。

３号土坑（第４図・図版２）
遺構概要　１号竪穴状遺構の床面で、１号土坑と４号土坑に挟まれるように位置する。１号土坑・４号土坑と切り合っているが、土層観察からは前後関係は明確につかむことができなかった。長軸 170cm 以上、短軸 135cm の不整形を呈し、深さは 34cm ある。遺物は出土していない。

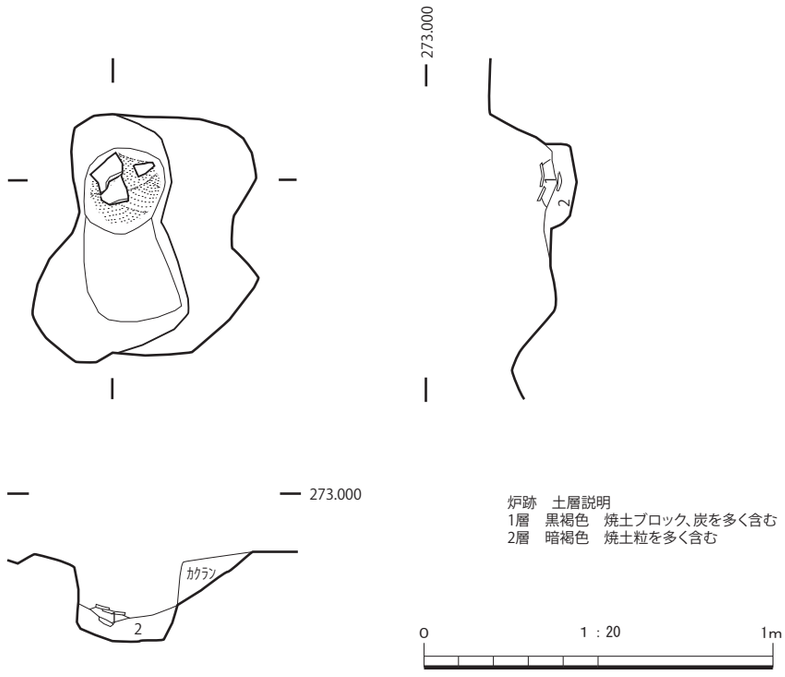
４号土坑（第４図・図版２）
遺構概要　１号竪穴状遺構の床面で、４号土坑と攪乱に挟まれるように位置する。長軸 176cm、短軸 70cm 以上の長楕円形を呈し、深さは 30cm ある。遺物は覆土上層から土師器坏（６）が出土している。

５号土坑（第４図・図版２）
遺構概要　第１区南端付近に位置する。長軸 86cm、短軸約 62cm の楕円形を呈し、深さは 15cm ある。遺物は出土していない。

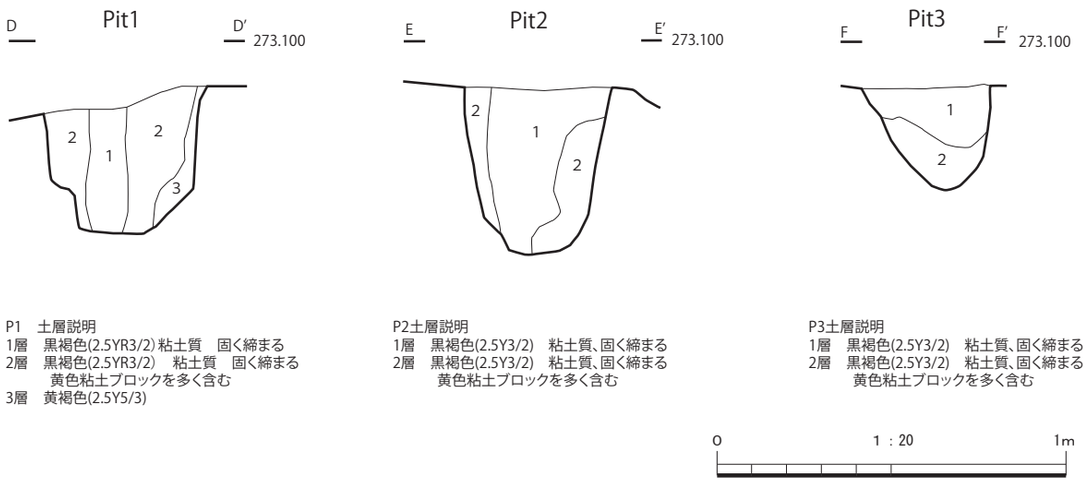
ピット群（第４図・第５図・図版２）
遺構概要　第１区南半部で２号土坑と５号土坑に挟まれる位置で３基のピットを確認した。いずれも遺物は出土していない。
ピット１　径 44cm。深さ 42cm。
ピット２　径 41cm。深さ 48cm。
ピット３　径 37cm。深さ 29cm。



第４図　第１区全体図（S=1/60）

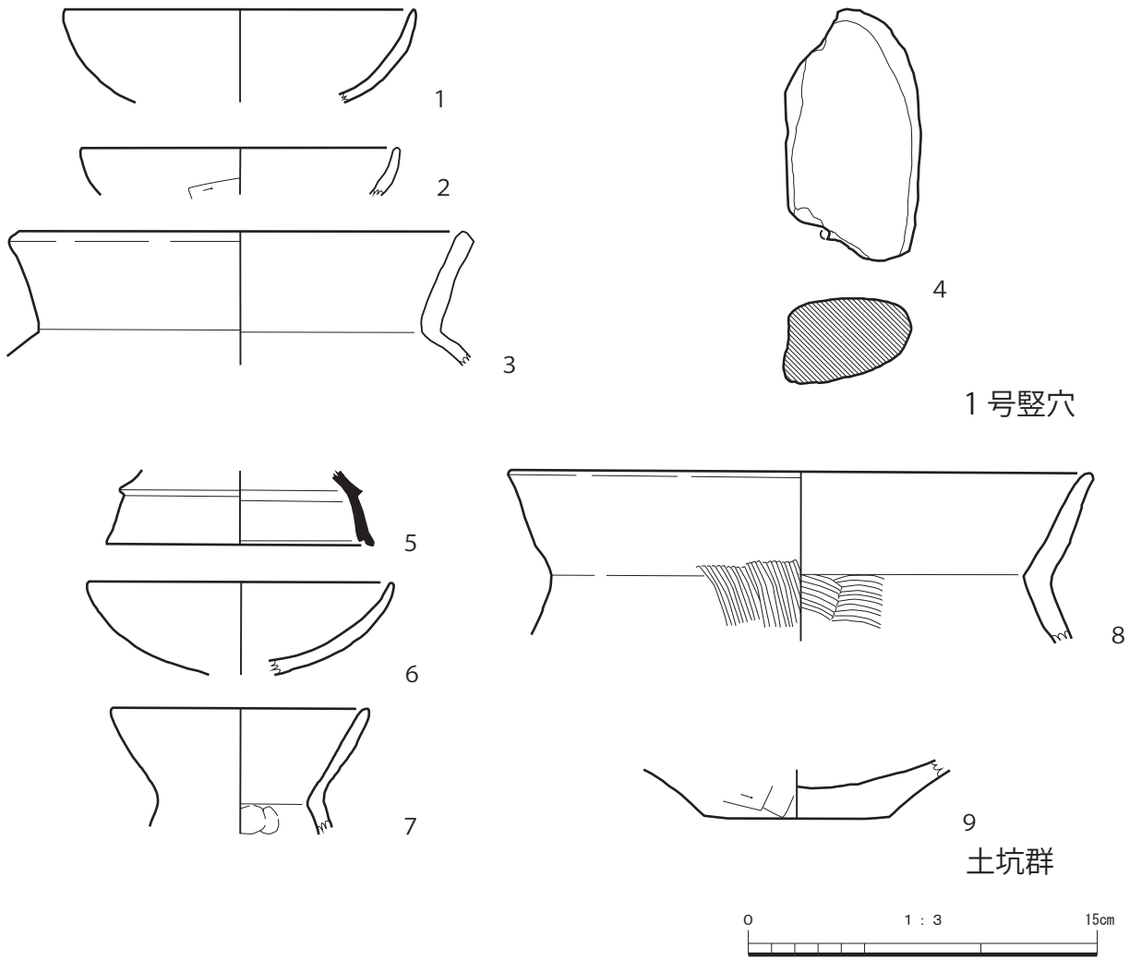


1 号竪穴炉跡微細図（S=1/20)



ピット群土層図（S=1/20)

第 5 図　第 1 区遺構微細図等



第６図　第１区出土遺物

第２節　第２区

第２区は、谷状地形の南側に位置する。調査範囲は南北約 30 m、東西約７mの細長い半月形を呈している。南端から調査区の東側を接するように水路が流れ、調査区西側の線は県調査区と接している。調査の結果、第２区のほぼ全面に渡って流路跡が確認された。

流路跡（第７図・図版３）

遺構概要　流路跡は第２区のほぼ全面で確認された。遺構確認面である灰白色砂層は調査区南西の一部で確認されただけである。流路跡は調査区の南端から始まり現在の水路に沿って流れ、調査区北半部に至って大きく広がり県調査区へ流れていく。覆土は暗褐色の粘土を主体に、砂礫層・粗砂層など洪水由来の堆積物が部分的に見られる。底面は多量の砂礫からなり、湧水も多いのでそれ以上は掘削できなかった。確認面からの深さは最大で約 50cm ある。調査区南西部の確認面に幅約 2.8 m、深さ 25cm の落ち込みがあり、流路跡に向かって合流する溝のような状況を呈しているが、隣接する県調査区でははっきりとした溝は確認できていない。調査区東側の水路に沿って、石垣を造る際に掘り込んだことが推定されるが、その線は明瞭には確認できなかった。

遺物出土状況（第８図・図版４）　流路跡からは土器・陶器のほか木製品、馬歯、サワグルミや桃の種などの植物遺体が出土した。

土器・陶器は大部分が摩滅しており流路の上流から流されてきたものであることが推定できる。出土状況は流路跡全体に散らばっており顕著な特徴はないが、常滑甕（23）や天目茶碗（24）・香炉（25）など中近世の遺物が先述した石垣を造る際に掘り込んだと推定される線の周辺から出土している。

木製品も土器・陶器と同じように流路跡全体に散らばって出土しており、顕著な特徴は見られない。強いてあげるならば斎串のうち出土状態のわかる３点（40・42・43）が調査区中央付近から集中して出土する傾向がある。

出土遺物（第９～ 14 図・図版５～８）　出土した土器・陶器はほとんどが小破片で摩滅しており、実測に耐える遺物はほとんどなかった。しかし、流路跡の時期等を考える上で必要な資料であるので、あえて復元実測を行った。

１～５は古墳時代中期から後期に位置付けられる土師器で、坏（１）、高坏（２～４）、壷（５）がある。

６～ 11 は古墳時代後期に位置付けられるものである。６は須恵器の無蓋高坏の口縁部破片と考えられる。土師器は坏（７）、甑（８）、甕（９～ 11）が出土している。

12 ～ 14 は奈良時代に位置付けられる。12 は須恵器の高台付坏で、奈良時代始めの特徴である丸底気味の底部に高台が貼り付けられている。13・14 は土師器の盤状の坏の底部になる。

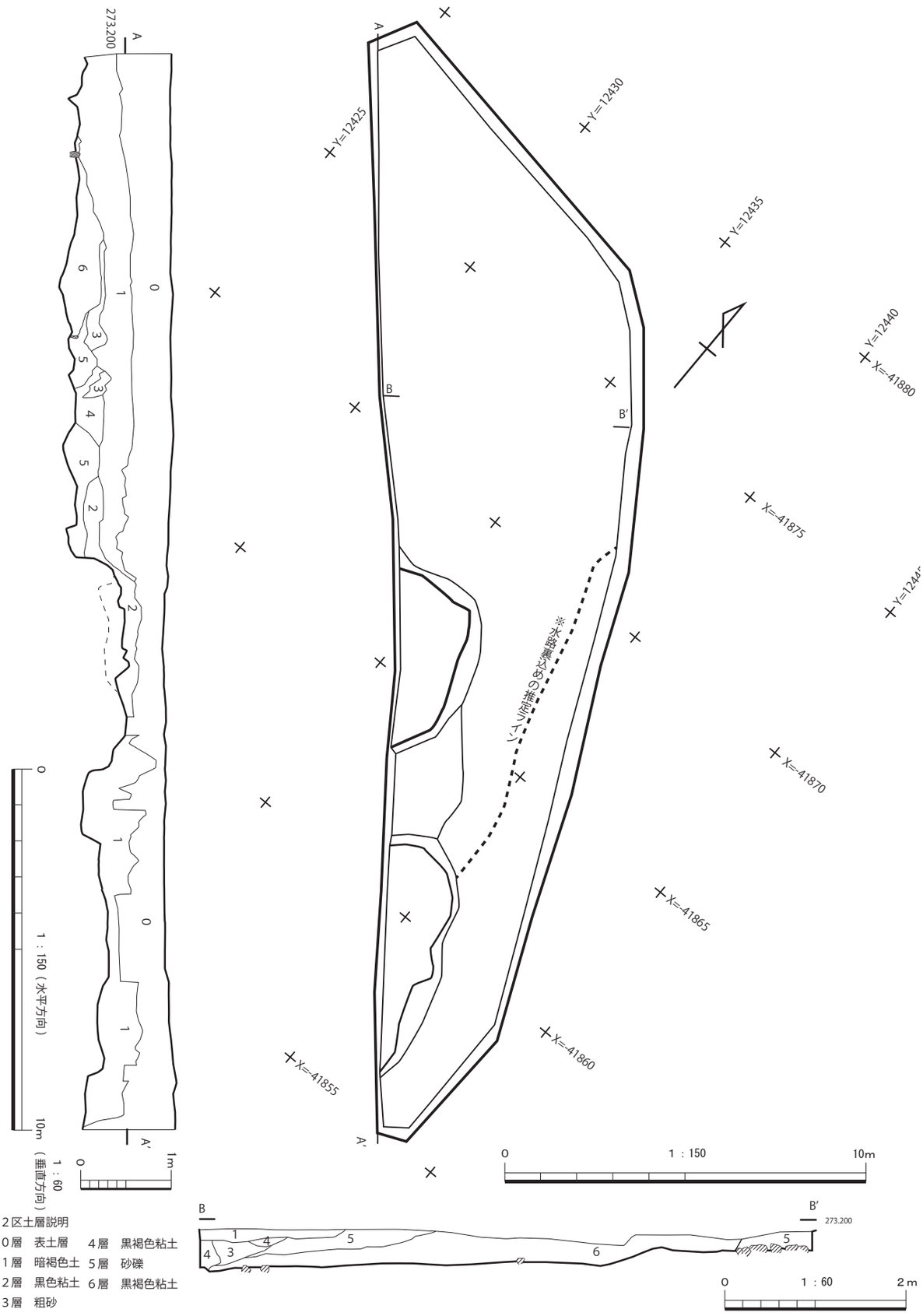
15 ～ 22 は平安時代に位置付けられる遺物で、灰釉陶器壷（15）・同椀（16）のほか土師器の椀類（17 ～ 22）がある。

23 は今回出土した土器・陶器の中で最大の破片で、口径が 40.8cm に復元できる常滑大甕の口縁部である。口縁が受け口状を呈する特徴から 13 世紀前半頃に位置付けられる。この大甕も表面が摩滅しており、上流から流されてきたものと考えられる。

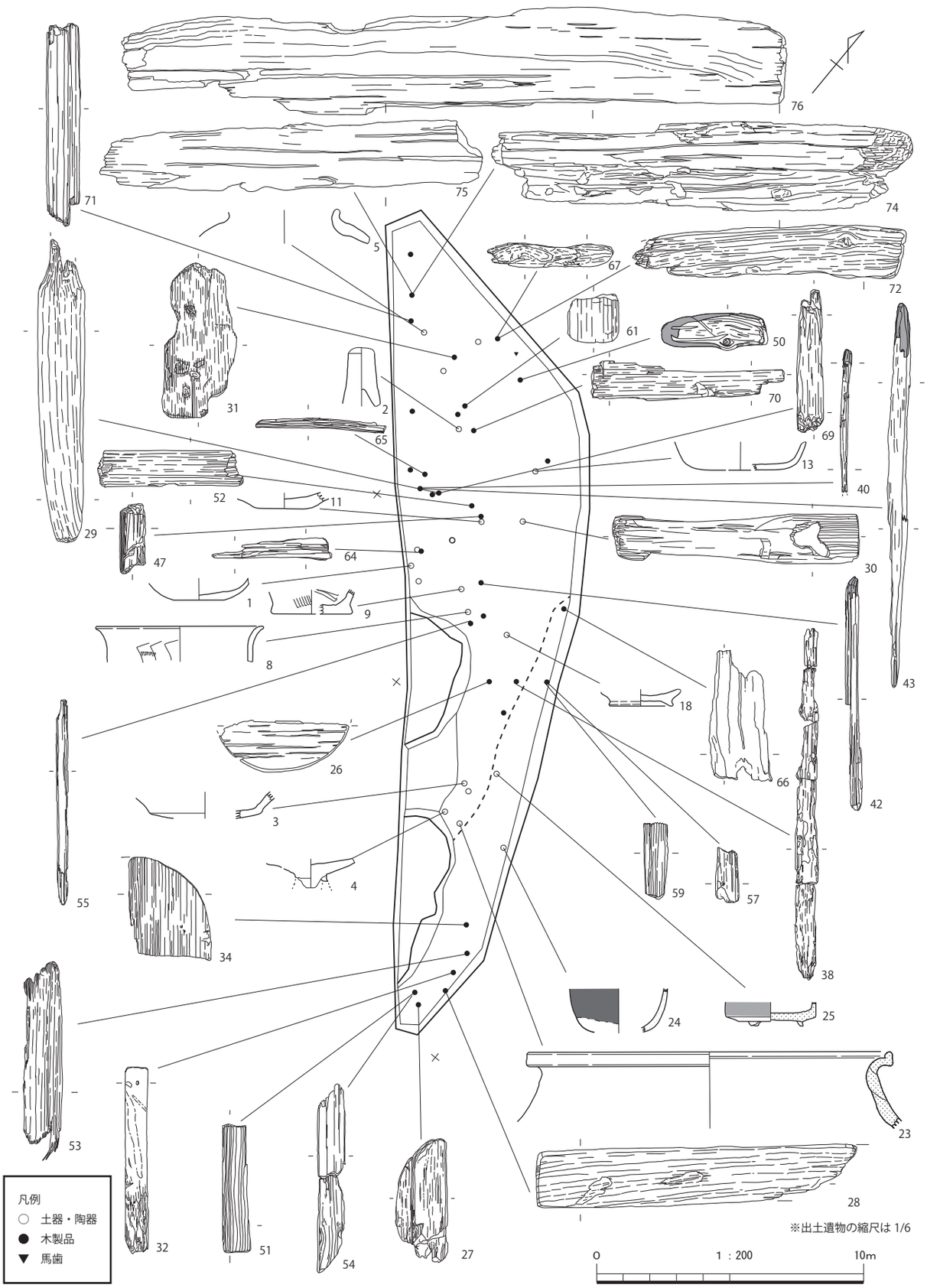
木製品は、製品のほか加工材、割材に分類した。26・27 は曲物の底、28 は桶の底でともに容器の一部である。29 は縦杵で半分を欠いている。30 は農具の柄と考えられ、ほぞ穴を持ち、下半部がくびれて刃先等につながるものと思われる。31 も農具の一部と考えられ、全体に摩滅している。32 は短冊状の板で、上端に小孔を持つ。33 は一端がくびれており、刀状の木製品になるのではないかと考えられる。34 は円形の薄板状の木製品の破片で、小孔が２つ空けられている。35 と 36 は小形円形の薄板状の木製品である。37 は全体に変形が著しいが薄板状の木製品である。38 は５つの破片に分かれていたが１本の杭に復元できた。

39 ～ 43 は割材であるが、一端が焼けており斎串であると考えられる。

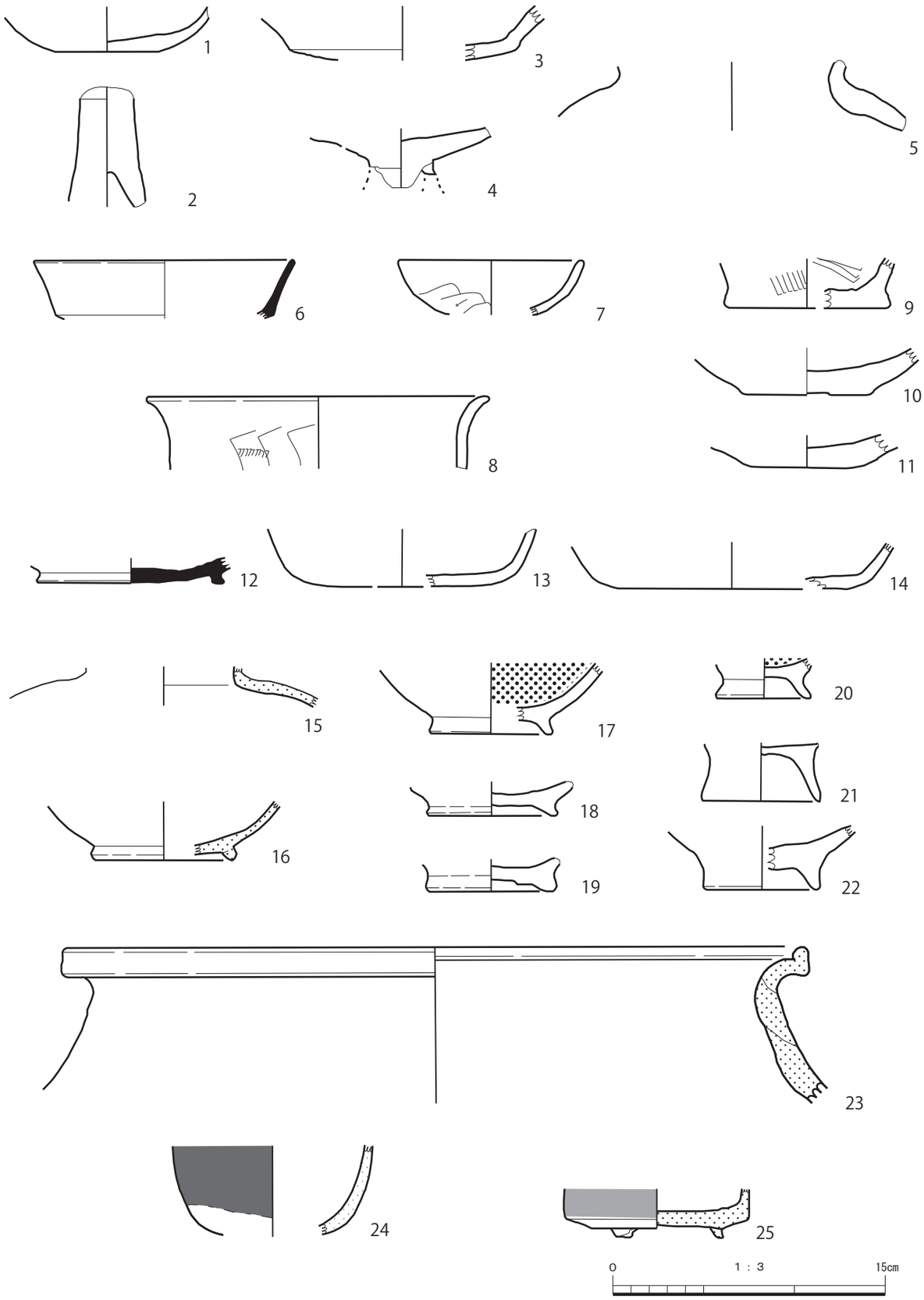
44 ～ 55 は加工材、56 ～ 76 は割材を掲載した



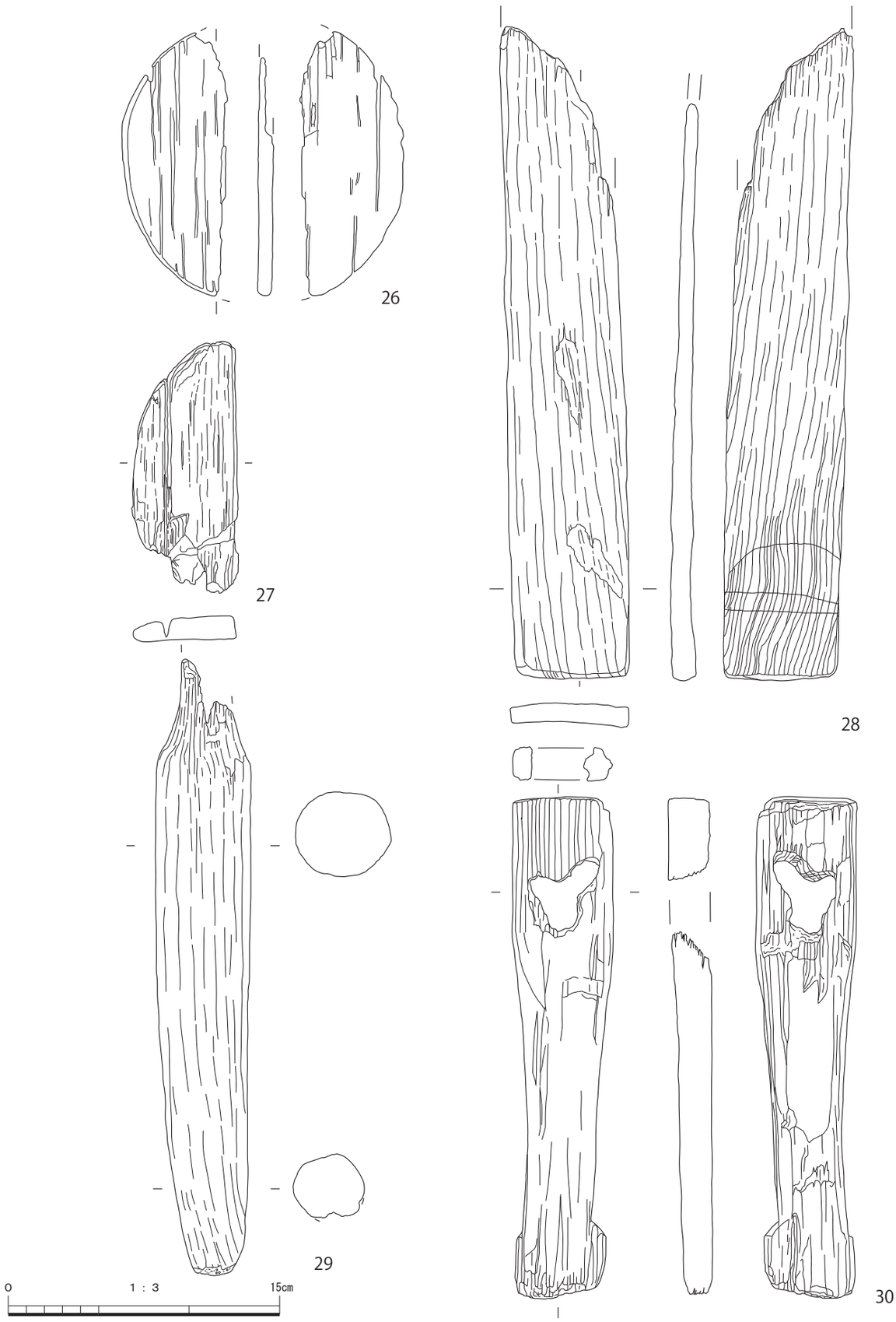
第７図　第２区　全体図（S=1/150)



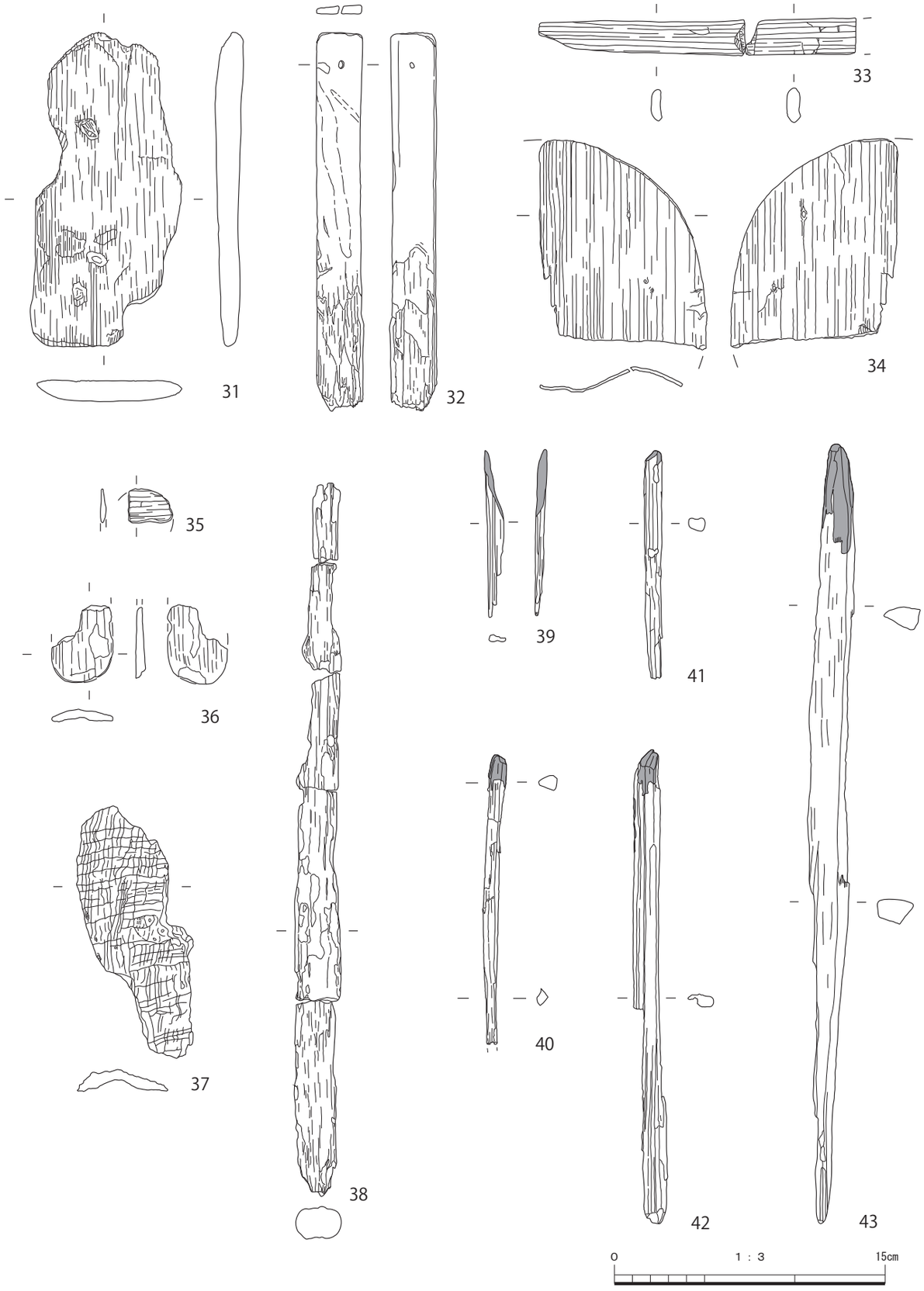
第８図　第２区遺物出土状況（S=1/200）



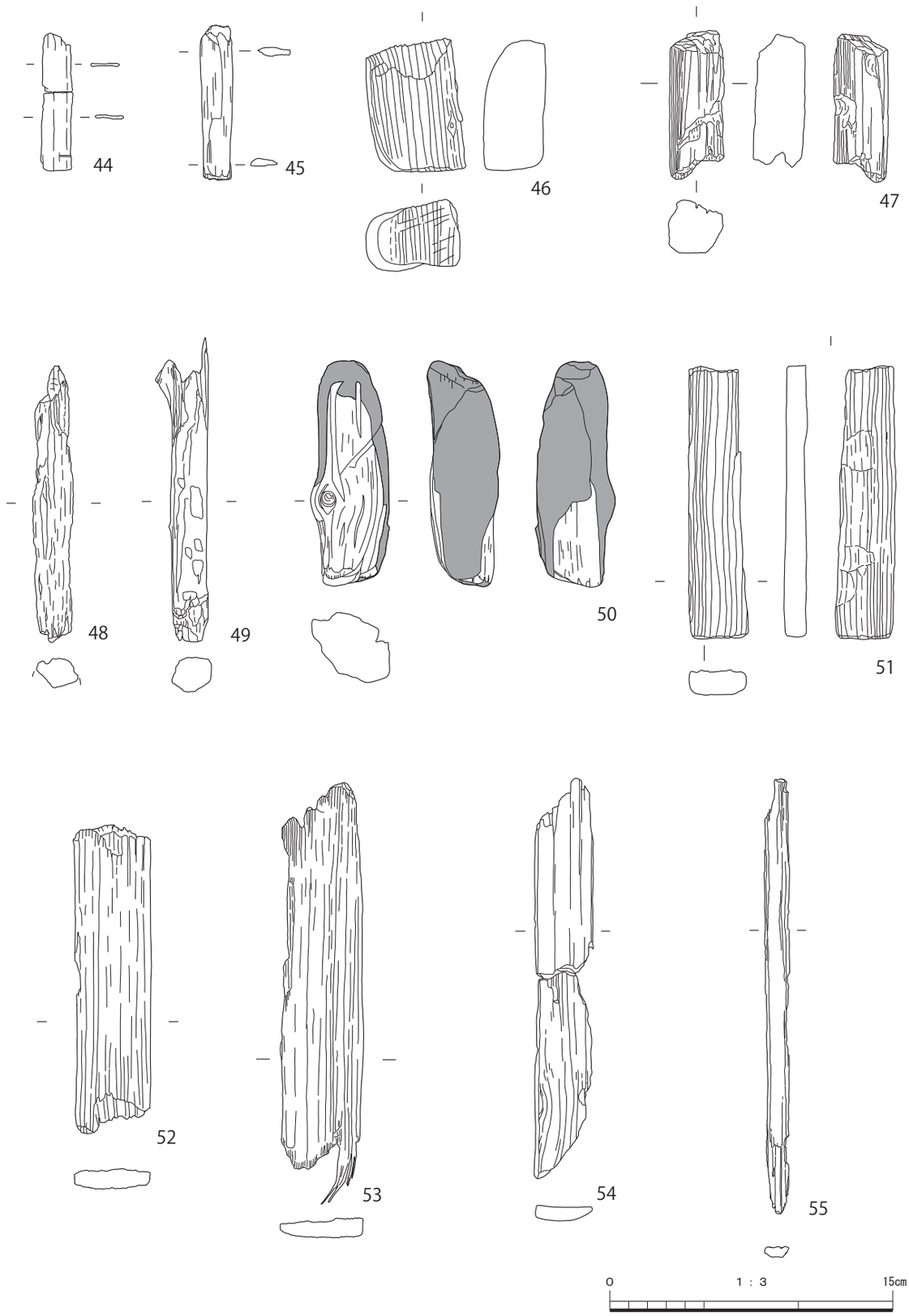
第９図　第２区出土遺物①



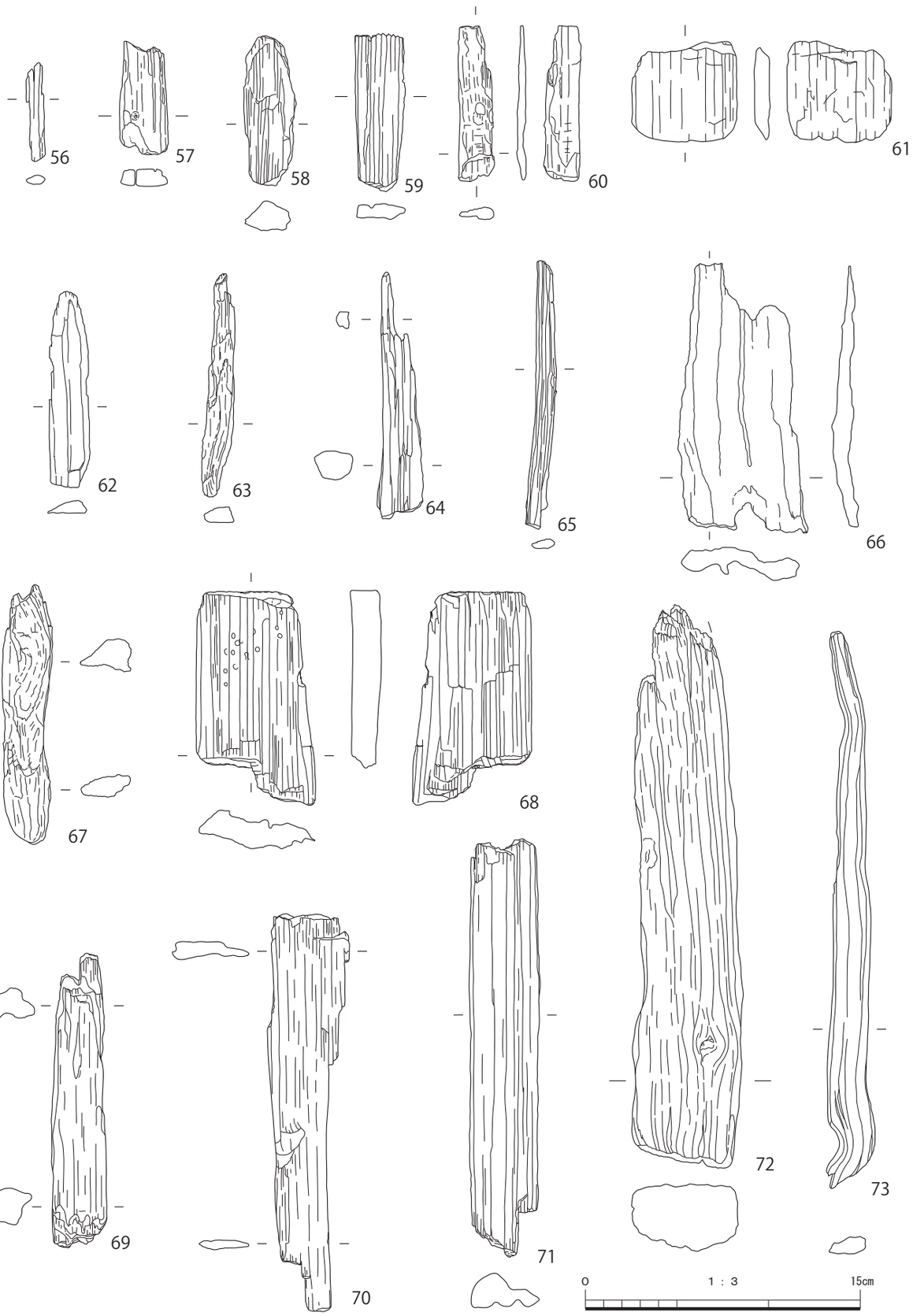
第 10 図　第 2 区出土遺物②



第 11 図　第 2 区出土遺物③



第 12 図　第 2 区出土遺物④



第 13 図　第 2 区出土遺物⑤

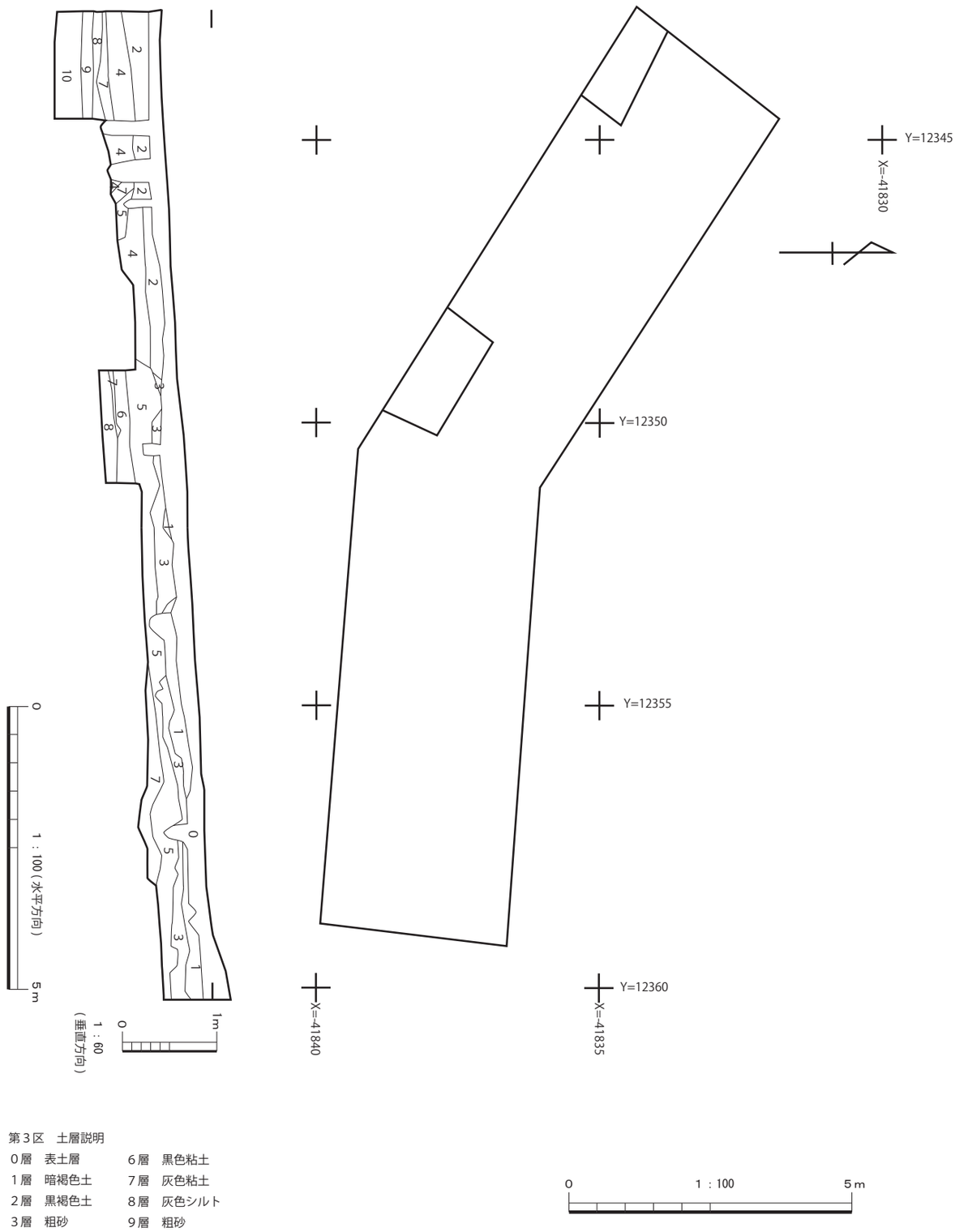
第 14 図　第 2 区出土遺物⑥

第３節　第３区（第 15 図）

第３区は下り車線側スマートインターチェンジの南側に新設される農道を対象として調査した。調査範囲は幅３mのトレンチをくの字状に全長約 16 mに渡って設定した。

調査は重機で表土を約 50cm 掘削した後、人力で精査したが遺構は検出されなかった。トレンチ内に２ヶ所サブトレンチを設けてさらに人力で 50cm 掘り下げたが遺物が少量出土しただけで遺構は検出されなかった。

以上の結果、本地区に遺構が存在しないことが確認されたので、トレンチの平面図及び土層図を作成して調査を終了した。



第３区　土層説明

０層　表土層	６層　黒色粘土
１層　暗褐色土	７層　灰色粘土
２層　黒褐色土	８層　灰色シルト
３層　粗砂	９層　粗砂
４層　黒色シルト	10 層　灰色シルト
５層　灰白色シルト	

第 15 図　第３区全体図（S=1/100）

挿図番号	遺構名	No,	種別	器種	部位	口縁		底部		器高	調整等			色調	胎土	焼成	備考
						口径	残存（%）	底径	残存（%）		外面	内面	底面				
第 6 図	1 号竪穴	1	土師器	坏	口縁～体部	（15.0）	10	-	-	-	ヘラ削り。	ナデ。	-	5YR7/6 橙色	挟雑物少ない。	良	
第 6 図	1 号竪穴	2	土師器	坏	口縁部	（13.5）	13	-	-	-	ヘラ削り。	ナデ。	-	10YR6/3 鈍い橙色	挟雑物少ない。	良	
第 6 図	1 号竪穴	3	土師器	甕	口縁部	19.1	60	-	-	-	ヘラ削り。	ナデ。	-	5YR4/6 赤褐色	砂粒多く含む。	良	
第 6 図	1 号竪穴	4	軽石	不明		長 10.8	-	短 5.7	-	厚 3.4			-	5YR2/1 黒褐色			浮きか？
第 6 図	土坑	5	須恵器	坏蓋	口縁～体部	（11.4）	14	-	-	-	ナデ。	ナデ。	-	7.5Y6/1 灰色	石英粒を含む。	良	
第 6 図	4 号土坑	6	土師器	坏	口縁～体部	（13.0）	10	-	-	-	摩滅のため不明。	ナデ。	-	5YR6/6 橙色	砂粒、赤色粒子を含む。	良	
第 6 図	土坑	7	土師器	壷	口縁部	（11.0）	13	-	-	-	ナデ。	ナデ。体部内面指頭痕。	-	7.5YR6/6 橙色	砂粒を含むが、きめ細かい。	良	
第 6 図	1 号土坑	8	土師器	甕	口縁部	（25.0）	13	-	-	-	口縁部ナデ。体部楯ハケ。	口縁部ナデ。体部横ハケ。	-	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子を多く含む。	良	
第 6 図	土坑	9	土師器	甕	底部	-	-	（8.0）	25	-	ナデ。	ナデ。	ヘラ削り。	5YR3/6 暗赤褐色	3 ～ 5mm 大の小石を含む。	良	
第 9 図	流路跡	1	土師器	坏	底部	-	-	（5.6）	25	-	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	-	7.5YR7/4 鈍い橙色	赤色粒子を含む。	良	
第 9 図	流路跡	2	土師器	高坏	脚部	-	-	-	-	-	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	-	7.5YR7/6 橙色	赤色粒子・白色粒子を含む。	やや不良	
第 9 図	流路跡	3	土師器	高坏	坏底部	-	-	-	-	-	ナデ。	ナデ。	-	7.5YR7/4 鈍い橙色	きめ細かい。	やや不良	
第 9 図	流路跡	4	土師器	高坏	坏底部	-	-	-	-	-	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	-	7.5YR6/6 橙色	細かい砂を含む。	良	
第 9 図	流路跡	5	土師器	壷	体部	-	-	-	-	-	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	-	5YR5/6 明赤褐色	1 ～ 2mm 大の小石を含み、粗。	良	
第 9 図	流路跡	6	須恵器	高坏	口縁部	（14.2）	12	-	-	-	ナデ。	ナデ。	-	N6/6 灰色	密。	良	
第 9 図	流路跡	7	土師器	坏	口縁～体部	（10.0）	22	-	-	-	ヘラ削り。	ナデ。	-	5YR6/3 鈍い橙色			
第 9 図	流路跡	8	土師器	甑	口縁部	（18.8）	13	-	-	-	ハケ後ヘラ削り。	ナデ。	-	7.5YR7/3 鈍い橙色	きめ細かい。	良	

表 1　土器・陶器観察表①

挿図番号	遺構名	No,	種別	器種	部位	口縁		底部		器高	調整等			色調	胎土	焼成	備考
						口径	残存（%）	底径	残存（%）		外面	内面	底面				
第９図	流路跡	10	土師器	甕	底部	-	-	7.4	60	-	ナデ。	ナデ。	ヘラ削り。	（外）2.5YR5/4 鈍い赤褐色 （内）2.5YR3/1 赤灰色	1 ～ 2mm 大の小石を多量に含む。	やや不良	
第９図	流路跡	11	土師器	甕	底部	-	-	6.7	100	-	ナデ。	ナデ。	ナデ。	7.5YR5/3 鈍い褐色	3mm 大の小石を多く含み、粗。	良	
第９図	流路跡	12	須恵器	坏	底部	-	-	（10.1）	14	-	ナデ。	ナデ。	回転ヘラ削り。	2.5Y8/1 灰白色	密。	不良	
第９図	流路跡	13	土師器	坏	底部	-	-	（12.6）	18	-	ナデ。	ナデ。	ヘラ削りか？	7.5YR7/4 鈍い橙色	きめ細かい。	良	
第９図	流路跡	14	土師器	坏	底部	-	-	（15.3）	10	-	ナデ。	ナデ。	ヘラ削りか？	7.5YR7/4 鈍い橙色	密。	良	
第９図	流路跡	15	灰釉陶器	壷	体部	-	-	-	-	-	ナデ。	ナデ。	-	5Y8/1 灰白色	密。	良	外面灰釉。
第９図	流路跡	16	灰釉陶器	椀	底部	-	-	（7.6）	30	-	ナデ。	ナデ。	回転ヘラ削りか？	7.5Y8/1 灰白色	密。	良	
第９図	流路跡	17	土師器	椀	底部	-	-	（6.6）	25	-	ナデ。	ミガキ。	-	7.5YR7/3 鈍い橙色	密。	良	内面黒色処理。
第９図	流路跡	18	土師器	椀	底部	-	-	（7.0）	10	-	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	10YR5/3 鈍い黄橙色	砂粒含む。	やや不良	
第９図	流路跡	19	土師器	椀	底部	-	-	6.8	100	-	摩滅のため不明。	摩滅のため不明。	回転糸切り。	5YR6/6 橙色	砂粒含み、やや粗。	やや不良	
第９図	流路跡	20	土師器	椀	底部	-	-	5.1	75	-	ナデ。	ナデ。	ナデ。	7.5YR6/6 橙色	砂粒含む。	良	内面黒色処理。
第９図	流路跡	21	土師器	椀	底部	-	-	（6.4）	20	-	ナデ。	ナデ。	回転糸切り。	7.5YR7/4 鈍い橙色	密。	良	
第９図	流路跡	22	土師器	椀	底部	-	-	（6.0）	30	-	ナデ。	ナデ。	ナデ。	5YR7/6 橙色	砂粒多く含み、やや粗。	やや不良	
第９図	流路跡	23	陶器	大甕	口縁部	（40.8）	10	-	-	-	ナデ。	ナデ。	-	7.5YR5/2 灰褐色	砂粒含む。	やや不良	常滑窯。
第９図	流路跡	24	陶器	天目茶碗	体部	-	-	-	-	-	ナデ。	ナデ。	回転ヘラ削り。	5Y7/1 灰白色	密。	良	内外面に天目釉。
第９図	流路跡	25	陶器	香炉	体部	-	-	（10.1）	50	-	ナデ	ナデ	ヘラ削り。脚貼り付け。	2.5Y8/4 淡黄色	やや粗	良好	外面にアメ釉。

表２　土器・陶器観察表②

挿図番号	図版番号	番号	名称	長軸	短軸	厚さ	備考
第 10 図	図版 6	26	曲げ物底	14.0	5.8	1.3	
第 10 図	図版 6	27	曲げ物底	径 15		0.9	
第 10 図	図版 6	28	桶底	36.1	6.5	1.1	
第 10 図	図版 6	29	縦杵	34.0	5.3	4.6	
第 10 図	図版 6	30	加工品	27.8	5.6	2.2	農具の柄か？三角形のほぞ穴あり。下半部くびれる。
第 11 図	図版 6	31	加工品	17.4	7.4	1.5	農具の一部か？
第 11 図	図版 6	32	加工品	21.0	2.6	0.5	短冊状。小孔 1 あり。
第 11 図	図版 6	33	加工品	11.4 6.2	5.5 7.5	2.0 2.0	剣形木製品か？
第 11 図	図版 6	34	加工品	11.6	9.3	0.2	円形薄板。小孔 2 あり。
第 11 図	図版 6	35	加工品	2.5	1.8	0.3	薄板状。
第 11 図	図版 6	36	加工品	4.2	3.4	0.5	
第 11 図	図版 6	37	加工品	14.0	6.4	0.9	農具の一部か？
第 11 図	図版 6	38	杭	39.7	径 1.8 ～ 2.5		
第 11 図	図版 6	39	斎串	9.3	0.9	0.4	先端が焼けている。
第 11 図	図版 6	40	斎串	14.0	1.0	1.0	先端が焼けている。
第 11 図	図版 6	41	斎串	12.7	1.0	0.7	先端が焼けている。
第 11 図	図版 6	42	斎串	26.5	1.5	0.7	先端が焼けている。
第 11 図	図版 6	43	斎串	43.4	2.2	1.4	先端が焼けている。
第 12 図	図版 7	44	加工材	7.5	1.6	0.1	2 片に分かれる。薄板状。
第 12 図	図版 7	45	加工材	8.2	1.7	0.5	
第 12 図	図版 7	46	加工材	7.1	5.0	3.2	
第 12 図	図版 7	47	加工材	7.9	2.9	2.8	杭か。
第 12 図	図版 7	48	加工材	14.7	2.1	1.6	杭か？
第 12 図	図版 7	49	加工材	16.1	2.8	1.8	棒状。
第 12 図	図版 7	50	加工材	11.8	4.2	3.3	全体に炭化している。
第 12 図	図版 7	51	加工材	14.5	3.0	1.2	
第 12 図	図版 7	52	加工材	16.4	4.0	1.0	
第 12 図	図版 7	53	加工材	22.3	4.4	0.7	
第 12 図	図版 7	54	加工材	21.3	3.1	0.7	
第 12 図	図版 7	55	加工材	23.0	1.4	0.8	棒状。
第 13 図	図版 7	56	割り材	5.4	1.0	0.5	
第 13 図	図版 7	57	割り材	6.3	2.6	0.9	小孔 1
第 13 図	図版 7	58	割り材	8.2	2.9	1.6	
第 13 図	図版 7	59	割り材	8.6	2.7	0.8	
第 13 図	図版 8	60	割り材	8.5	1.9	0.7	
第 13 図	図版 8	61	割り材	5.6	5.8	0.8	
第 13 図	図版 8	62	割り材	10.7	2.1	0.7	
第 13 図	図版 8	63	割り材	12.0	1.5	0.9	
第 13 図	図版 8	64	割り材	13.4	2.5	1.6	
第 13 図	図版 8	65	割り材	14.8	1.2	0.5	
第 13 図	図版 8	66	割り材	14.7	7.1	1.1	
第 13 図	図版 8	67	割り材	14.2	2.6	1.7	
第 13 図	図版 8	68	割り材	11.3	6.3	1.5	
第 13 図	図版 8	69	割り材	15.9	2.9	2.0	
第 13 図	図版 8	70	割り材	21.7	4.3	1.0	
第 13 図	図版 8	71	割り材	22.9	3.8	1.8	
第 13 図	図版 8	72	割り材	30.8	5.9	3.6	
第 13 図	図版 8	73	割り材	30.5	2.6	1.2	
第 14 図	図版 8	74	割り材	47.5	10.0	3.2	76 と同一個体か？
第 14 図	図版 8	75	割り材	43.0	7.2	2.4	76 と同一個体か？
第 14 図	図版 8	76	割り材	74.0	11.0	3.0	

表 3　木製品観察表

第５章　結語

身洗沢遺跡は弥生時代から古墳時代初頭の集落遺跡で、生産域である水田跡と居住域である竪穴住居跡がセットになって確認されていた。今回の調査地点は、笛吹八代スマートインターチェンジの建設に先立って実施された予備調査によって遺跡の範囲が拡大された部分であり、遺跡範囲の中では最も東側にあたる。今回の調査では、第１区で古墳時代後期の竪穴状遺構と土坑群、第２区では流路跡が発掘された。

スマートインターチェンジの建設に伴って実施された山梨県教育委員会の調査地点では、第１区に隣接して古墳時代中期中葉から後葉の竪穴状遺構が２基確認され、谷状地形からは当該期の土器が多量に出土している。古墳時代中期の羽口が出土していることから、第１区の周辺の微高地上に鍛冶を行った工人を伴う集団の居住域があったことが推測されている。今回の調査で確認された１号竪穴状遺構は、周溝を持つが貼り床・柱穴はない。また同時期の住居跡の大半がカマドをもつのに対して、掘り込みの深い地床炉を持つなど特徴的である。県調査で確認された遺構群よりも時代が下るが、何らかの手工業生産に関連した遺構であった可能性がある。

第２区で確認された流路跡からは、古墳時代中期から中世までの土器・陶器や木製品が出土した。この流路跡は、県調査地区の１号溝状遺構や、古墳時代中期の遺物が多量に出土した遺物集中地点２の谷状地形につながっていく。流路跡から出土した土器・陶器の大半は磨滅しており、流路跡という性格からみて直接時期を示すものではないが、古墳時代中期から平安時代にかけて流路の周辺で生活が営まれ、常滑大甕の年代である 13 世紀前半頃に流路跡が埋まり、現在の水路に限定されていったものと思われる。

今回の発掘調査は限られた範囲であったが、古墳時代後期における手工業生産の痕跡や、古墳時代中期から平安時代にかけての水辺の変遷を垣間見ることができた。今後周辺の調査事例とともに検討する中で、古代八代郡の実像を描くことができるだろう。

発掘調査ならびに報告書作成に当たって、関係各位及び関係諸機関より多大なるご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

引用・参考文献

八代町　1975 『八代町誌』
山梨県教育委員会　1986 『若彦路』山梨県歴史の道調査報告書第８集
山梨県　1999 『山梨県史』資料編２原始・古代２
山梨県教育委員会　1990 『身洗沢遺跡　一町五反遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 55 集
八代町教育委員会　2004 『身洗沢遺跡』八代町埋蔵文化財報告書第 20 集
山梨県教育委員会　2017 『身洗沢遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 310 集

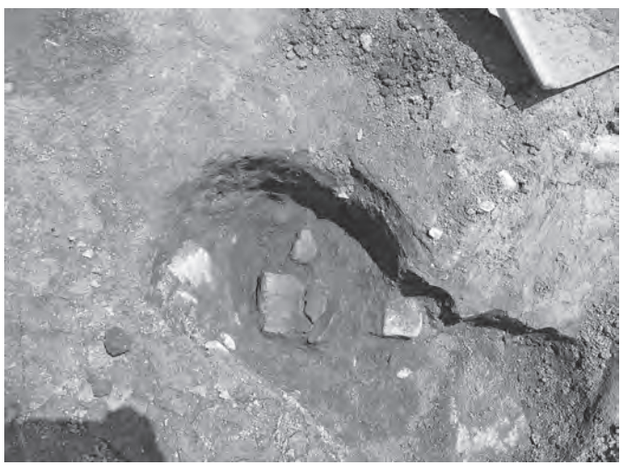
1　調査地点全景 (南から)

2　俯瞰写真 (上が北東)

図版 2

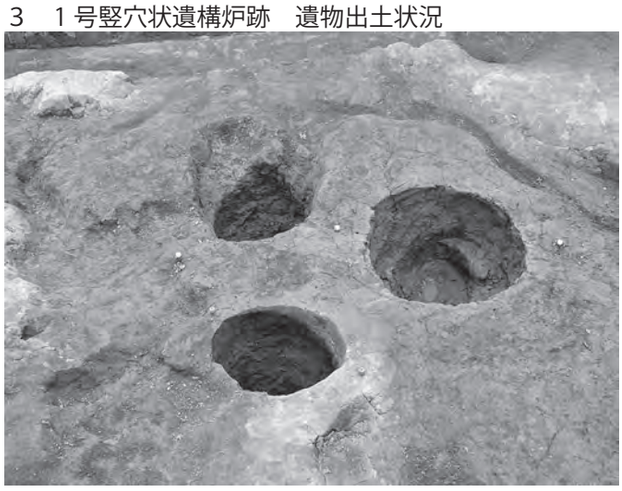
1　第 1 区俯瞰写真 (上が北西)

2　1 号竪穴状遺構・土坑群 (南西から)



3　1 号竪穴状遺構炉跡　遺物出土状況

4　1 号土坑　遺物出土状況



5　ピット群

1　第２区俯瞰写真（上が北東）

2　第２区全景 (南から)

3　流路跡（北から）

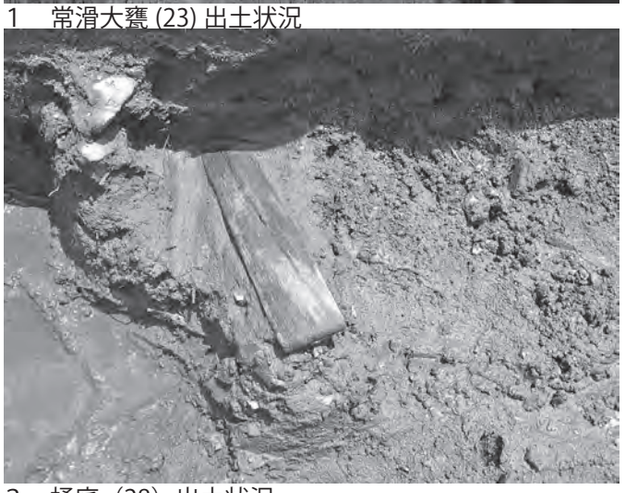
4　流路跡南半部

5　調査風景

図版 4

1　常滑大甕 (23) 出土状況

2　曲物（26）出土状況



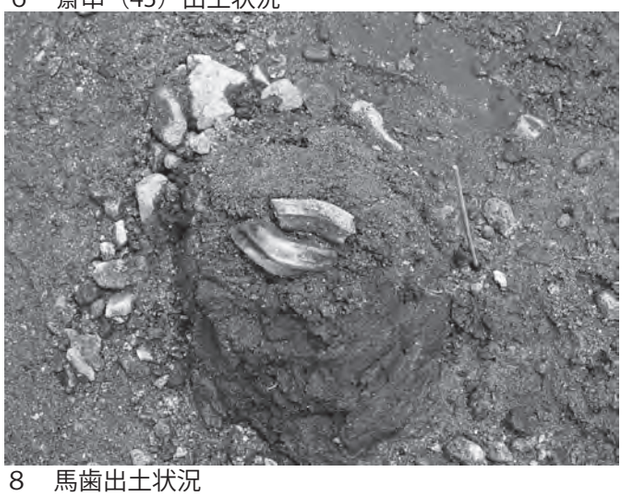
3　桶底（28）出土状況

4　縦杵（29）出土状況

5　農具（30）出土状況

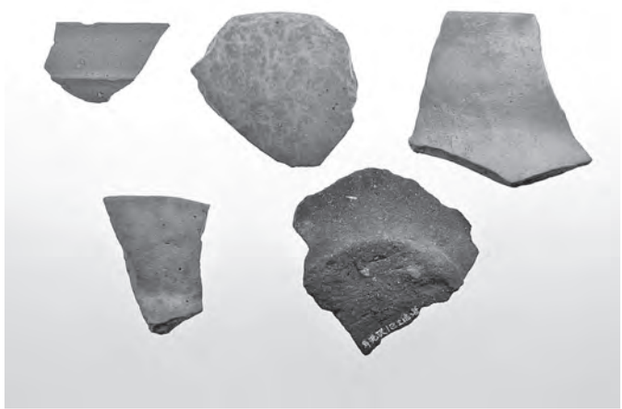
6　斎串（43）出土状況

7　割材（76）出土状況



8　馬歯出土状況

1　1 号竪穴状遺構　出土遺物



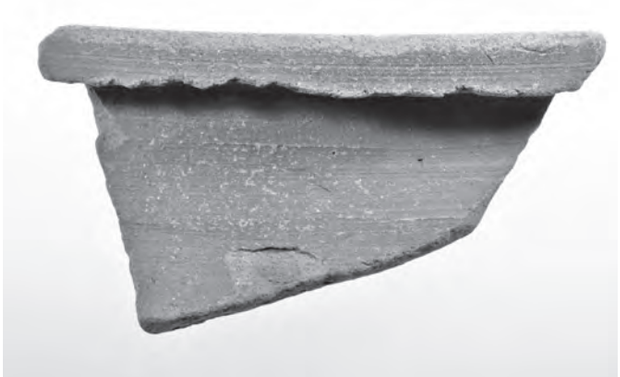
2　土坑群　出土遺物

3　流路跡出土土器（1 ～ 5）

4　流路跡出土土器（6 ～ 11）

5　流路跡出土土器（12 ～ 16）

6　流路跡出土土器（17 ～ 22）



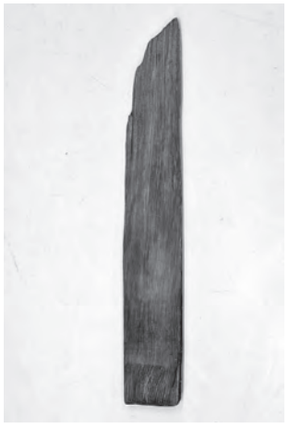
7　流路跡出土　常滑大甕（23）

8　流路跡出土陶器（24・25）

図版 6

26

27


28

29

30

31

32

34

33

35

36

37

38

39

40

41

42

43

流路跡出土木製品①

44

45

46

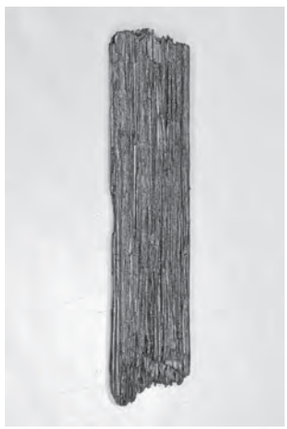
47

48

49

50

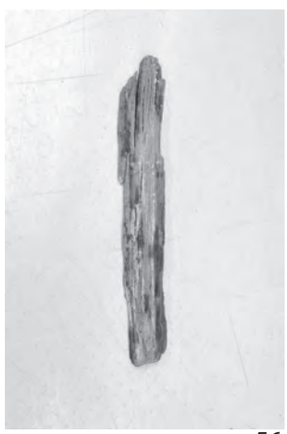
51


52

53

54

55


56

57

58

59

流路跡出土木製品②

図版 8

60

61

62

64

63

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

流路跡出土木製品③

報　告　書　抄　録

ふりがな	みあらいざわいせき
書　名	身洗沢遺跡
副書名	農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	笛吹市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 36 集
編著者名	瀬田正明
編集機関	笛吹市教育委員会　（山梨県笛吹市石和町市部 809 番地 1）
刊行機関	笛吹市教育委員会　（山梨県笛吹市石和町市部 809 番地 1）
発行年月日	平成 29 年（2017）3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
みあらいざわいせき 身洗沢遺跡	やまなしけんふえふきし 山梨県笛吹市 やつしろちょうみなみ 八代町南	251	八代 -19	35° 37′ 33″	138° 38′ 63″	2015. 5.11 ～ 2015. 6.11	225㎡	農道整備

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	古墳～ 平安時代	竪穴状遺構　1 土坑　5 流路跡　1	土師器・須恵器・陶器 木製品（曲物・桶・縦杵・斎串など）	

笛吹市文化財調査報告書第 36 集

身洗沢遺跡

農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 29 年（2017）3 月 30 日　印刷
平成 29 年（2017）3 月 30 日　発行

編集・発行
笛吹市教育委員会
〒 406 － 0031
山梨県笛吹市石和町市部 809 － 1

印　刷
青柳印刷株式会社